

平成28年度第3回青梅市協働事業市民推進委員会議事録

平成28年11月25日

市役所201会議室

出席委員8人、欠席委員2人

1 あいさつ

川崎委員長あいさつ

市民活動推進課長あいさつ

2 報告事項

(1) 平成28年度市民提案協働事業中間報告について

事務局より報告

委員：ようこそおそき事業で、移住・定住の相談窓口がないことが課題となったなかで、相談窓口が企画政策課となったことは良かった。山梨県は移住、定住にNPO法人も力をいれているので、役に立つようであれば情報を提供していきたい。

委員：三田弾正手作り甲冑隊は、熱心に活動している。先日開催した産業観光まつりや今年の梅まつりに参加をされており、地域おこしを行っている。

森林所有者・地域住民・事業者・若者を結ぶ勉強会の実施事業は、産業として行っていけるといい。

委員：青梅の木材で使ったおもちゃ作りの動きはある。

(2) 協働研修「事例から学ぶ『多様な主体による協働～一軒の空き家  
が作った、地域のつながり～』について」

事務局より報告

委員：居場所の問題がある中で、利益より居場所の提供をしていることが良かった。団体等がお互いに助け合って活動してコラボレーションしていけたらいい。

委員：組織をうまく作ったと感じた。実行委員会を立ち上げたことで、認知度が上がった。

委員：知識があった方が関わっていたのでうまくいったのではないか。金銭面が課題となっているのでつなげていくのがボランティアセンターの役目だと思う。

委員：異世代が集まるしくみを上手く行っている。異世代が集って

いくことの発信や事業のプログラムを上手く組んでいる。

委員：金銭面、相続の面で問題はある。こまじいのような事業を行う場合には、税金の軽減の仕組みは必要である。

委員：持ち主に家賃は払っているのか。

事務局：払っていないと聞いている。

委員：寄贈という方法もあるが、そのまま所有をしながら引き継ぐことが難しい。第2ステージにリノベーションがある。今後はセットで考えていかなければいけない。

委員：公共施設でこのような事業を行うと規制があるので難しいのでは。

委員：空き家対策の部分を活用することはできるかもしれない。また東京都の地域の底力再生事業助成の活用もある。

委員：講師が行政職員も現場にでていくことが必要だと言っていた。

委員：トラブルが無いようにルールを作っていくなかで、ゆるく、ゆるく行っていることがすごい。協働事業推進員の感想は。

事務局：地域にこんな場所がつくられたらすばらしい、いろいろな人の力を借りて成功された話は参考になりました、事例を聞き協働事業の運営について理解できた、自分のやっている活動と比較して、考慮する良い機会となったなどの意見がありました。

委員：つながるような形でできるといい。

委員：主催は自治会連合会であり大変なところもあるが、行政、社会福祉協議会、ボランティアで行っていたことがうまくいった要因ではないか。

委員：今後の自治会館のありかたはどうであるか。

委員：高齢者の方が自治会館を使用することが多い。サークル活動で使用している。梅っこ体操で自治会館を使用している。

事務局：市としては、教育委員会のサタデースクールでも使用している。

委員：町内の文化祭を自治会館で開催している。

### (3) その他

事務局：市民活動団体支援講座「組織運営の肝をつかむ～団体の想いをカタチにするには～」を平成29年1月16日（月）午後

2時～午後4時30分で開催します。講師の長田氏は、東京ボランティア・市民活動センター発行の「居場所づくりがきょうまくいくハンドブック」の検討委員会の委員でもある居場所づくりのエキスパートです。12月15日から受付開始しますので委員の方もぜひ参加してください。

委員：居場所づくりにはいろいろなかたちがある。講師の長田氏は多世代の場をつくるなど、その場をつくるためにどのようにしたらいいのかを実践している。

事務局：出前講座の申請が市内の高校よりあったため、「ボランティアってなあに？」の内容で青梅ボランティア・市民活動センターが講師となり12月13日に行います。

委員：12月16日に災害ボランティア養成講座を開催します。地域のことをよく知る災害時に活躍するボランティアの養成を目的に事例や災害ボランティアの心構えについての講義を行う。ボランティアの養成であるが、運営にも関わってほしい。

委員：ボランティア・市民活動紹介展を平成29年1月10日から1月15日まで中央図書館で開催する。

委員：平成29年3月31日にさよなら市民会館を子ども劇場西多摩と市と共催で、パネル展示、パネルディスカッションなどを行う。